

カルロス・マグノ・カンポス元 EMBRAPA 総裁
ロベルト・ロドリゲス元農務大臣
セバスチャン・バルボーザ前 EMBRAPA 総裁
エミリアーノ・ポテーリヨ CAMPO 社社長
ご臨席の皆様,

こんにちは,

本日, このようにカルロス・マグノ・カンポス氏及び野原一峰氏への令和元年度外務大臣表彰授与式を皆様とともに開催できることを大変うれしく思います。

カルロス・マグノ・カンポス氏は, 長年ブラジル農牧研究公社 (EMBRAPA) に勤務し, セラード研究所所長, EMBRAPA 総裁などの要職を務め, 40 年以上にわたり日伯間の農業技術開発の協力及び相互理解の促進に貢献されました。特に, 日本とブラジルの協力事業であるセラード開発計画 (PRODECER) における同氏の貢献は多大なものがあります。

私は, PRODECER について日本, ブラジル, 世界の人々にもっと知ってもらいたいと思い, 常々次のように語っています。

『PRODECER は, 不毛の大地と言われた『セラード』を世界有数の農業生産地域に変え, ブラジルを世界最大の大豆輸出国にするなど, ブラジルを世界の農業大国に押し上げた。PRODECER は, そのスケールとインパクトの大きさに鑑みて世界の農業史に記録される一大プロジェクトであり, 日本人とブラジル人が誇ることができる, 日伯協力の象徴的な成功案件である。』

EMBRAPA は, PRODECER における伯側の中心的な実施機関です。私は, この機会に, カルロス・マグノ・カンポス氏及び同氏に代表される EMBRAPA の歴代の職員の方々に対して, PRODECER における EMBRAPA の貢献, 尽力に深甚なる敬意を表します。同時に, PRODECER に携わった日伯の多くの関係者にも改めて敬意を表したいと思います。

次は, 野原一峰公邸料理人です。野原料理人は, メキシコ及びここブラジルで, 私とともに, 公邸料理人として勤務し, 大使公邸にいらっしゃるお客様のために質の高い日本料理を提供して参りました。おかげさまで, 日本大使公邸の食事は, とてもおいしいとの評判をいただいています。

公邸での会食, レセプションだけではなく, マグロ解体ショウの実演, 日本食イベントへの参加, 日系社会への和食ワークショップ開催など, 和食という日本文化を紹介する活動も積極的に行いました。こうした貢献が評価されて, 今般,

野原料理人は、優秀公邸料理人として外務大臣表彰を授与されることになりました。

日本から遠く離れ、言語も文化も異なる地で、本格的な和食を提供することは、とても困難なことです。野原料理人も、日本食材の調達、現地スタッフとのコミュニケーションなどの困難を克服して活動を続けてきました。むろん、彼の活動は、彼一人の努力によって成り立つものではありません。食材を提供する方々、公邸職員など多くの関係者のご協力があって、大使公邸でのイベントは行われるものです。本日までご出席のそうした方々及びメキシコにてお世話になった方々に対して、私からも感謝の言葉を伝えたいと思います。

カルロス・マグノ・カンポス氏及び野原料理人のこのたびの受賞を心からお祝い申し上げます。また、ご家族、友人を始め、協力してこられた関係者の皆様に感謝するとともに、今後のますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

ありがとうございました。 (了)